

「道徳」とは

2 道徳は修身の復活か

(1) なぜ道徳ではなく修身だったのか

修身の初出は明治5年 修身口授

特設道徳が学習指導要領に位置づけられたのは昭和33年でした。以来、道徳は修身の復活と叫ばれ、忌避され続けてきました。それが道徳の授業実施率の低さの要因の一つです。

ここに道徳を追究する課題があります。

「道徳は修身の復活か」という根本的な問いです。道徳と修身は語が違うのですから、概念が異なるはずですが、修身と一口に言っても戦前の修身を一括りにはできません。それは、道徳も同じです。道徳と修身を一括りにして、道徳史として、①国定教科書による修身科教育の時代②戦後、三教科停止命令を受け全面主義と社会科による実践を試みた時代③昭和33年からの「道徳の時間」特設期④「特別の教科 道徳」と4区分(注1)された方もいますが、これは間違いです。修身が検定を経た教科書を使用し始めるのは明治27年(1894年)4月からですが、修身は明治5年の学制頒布と同時に公布した教則の中で、「修身口授(ぎょうぎのさとし)」として学校教育に初出しています。

道徳ではなく修身だったのは

しかしながら不思議に思いませんか。

前回申し上げたように、語道徳は、英語 Moral を元々儒教語として存在していた「道徳」を充てて日本語化した語です。前回述べた明六雑誌の中に、道徳という語は頻出しています。つまり、道徳なる語がなかったわけではないのです。ならば、なぜ「道徳」ではなく、「修身」だったのでしょうか。それは、明治維新から学制頒布を経て明治12年の教育令までのめまぐるしいまでの社会の激変と欧化政策と密接に関係しています。

①モラルサイヤンスの訳語 修身論

明治初頭、我が国の教育に大きな影響を与えた書物に Wayland の The Elements Of Moral Science があります。明治元年、小泉篤太郎が

散歩の途中で、書店の店頭で偶々見つけたものとされている、この書は「道徳論」に相違なし」とし、「其目録に従て書中の此處彼處を



2・3枚づゝ熟讀するに如何にも徳義一偏を論じたるものにして甚だ面白し」と、これを慶応関係者が買い求めて熟読。モラルサイヤンスは彼らによって「修身論」と訳され、慶応義塾の教場で用いられたのでした(注2)。モラルサイヤンスは、「修身論」になり、明治7年には阿部泰蔵による、本邦版「修身論」の発刊に至りますが(注3)、この書が修身論と訳されたところに修身になった因の1つがあったとまずは考えられます。

修身は儒教經書四書「大学」八条目に

修身なる語は、儒教經書の1つ「大学」八条目(注4)にあります。「先ずその身を修む。その身を修めんと欲する者は、先ずその心を正しくす。以下略…」という具合です。

が、儒教語修身と修身学における「修身」とは同じではありません。繰り返しますが、原義は Wayland の Moral Science です。同書はキリスト教の教義に基づいたものでしたから。

②洋学派の教育施策 啓蒙主義 実学

明治政府は、新政府の教育の中心をどこに据えるかという基本的な問題を抱えていました。国学、儒学、洋学のいずれかにするかで、国学派と儒学派が激しく争ったのですけれど、結果的には実学性に富んだ洋学派が主体となり、彼らを中心に文部省を設置、翌年に学制の

「道徳」とは

2 道徳は修身の復活か

制定へと進みます。明治5年の学制頒布です。その学制に先だって、その精神理念を表した、いわゆる学制序文が太政官布告の形で発出されます。「人々自ラ其身ヲ立テ其産ヲ治メ其業ヲ昌ニシテ以テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ…」つまり、人々の立身出世のために、学校では学問を授けるという趣旨の言葉で始まっているのです。♪身を立て、名をなせ、やよ、はげめ♪を彷彿とさせます。そこには、実学によって一身独立せよという福沢諭吉らの啓蒙主義の影響が見て取れます。その諭吉の「学問のすすめ」では、「修身学とは身の行いを修め人に交わりこの世を渡るべき天然の道理を述べたるものなり。」としています。

③戦後道徳と修身 概念の違い

ここで、戦後の道徳教育に飛んでみます。戦後道徳は、道徳性を育むことを狙いとしていますが、道徳性とは内面的資質で、人格の基盤となるものです。道徳性の内容項目には定義はありません。定義しようがないのです。

つまり、こうあるべきはなく、よりよい生き方を、自らが、その過程において追究していくところに道徳性の育みがあります。立身出世やこの世を渡るべき道理ではないのです。修身の根本と戦後道徳とは、このように、概念そのものが異なっていますから、道徳即ち修身ではありません。修身は、明治の教育の事始めが洋学主体で起こされ、「智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ」（注5）という、皇国づくりの文脈の中にありましたから、民主主義国家の道徳と異なるのは当然です。

(2) 明治政府の確立と興国期

維新から僅か4年。尊皇攘夷は「智識ヲ世界ニ求メ」になるのですから、維新ではなく革命と言うべきです。明治は慶応4年9月に始まります。ですから、実質的な明治は2年からです。学制頒布の明治5年までをみただけで目が回るようです。天皇中心の国体づくりに向け

て、行政府機関の確立、列強に伍する富国強兵、富岡製糸等産業振興、郵便事業、廃藩置県、新貨条例等、なさねばならぬことは山とありました。この間、政府首脳が不在となる岩倉使節団出発もありました。学制頒布は明治5年ですが、この年に限っても、学制頒布に、新橋・横浜間の鉄道開業、富岡製糸場の設立、同時進行で徴兵制の起ち上げ、グリゴリオ暦への変更、等等。当時の人々は、明治を「治まるめい」と読んだそうですけれど、これだけのことをこれだけの短期間で成し遂げていくエネルギーに驚嘆します。当然、国内混乱で政情不安。人心は乱れ、農民一揆、不平士族の反乱などがわき上がっていました。そういう中、明治5年に学制を頒布し、義務教育としての学校が始まりますが、学校の体をなしていません。9月には教則を公布しましたが、教科書の編集が進んでおらず、翻訳教科書が大半。修身では、それら翻訳書に加えて、福沢諭吉の『童蒙教草』等、文明開化の指導的な役割を果たした啓蒙家の著者を多数採択。余程、寺小屋の方が実学的でした。就学率は50%程度。当然です。

注1 「道徳の時間」特設期の議論の特色と課題
菊地真貴子 白鷗大学教育学部論集 2020, 14

注2 福沢全集巻1 緒言。Moral Science は、諭吉の「学問のすすめ」に影響を与えているという。

注3 阿部泰蔵「修身論」明治7年。阿部は明治生命保険の創業者。本書においては、キリスト関連の部分は省略・翻案。ウエイランドは修身学博士、聖書は古書、イエスは聖人、先賢としている。

※注釈にあたっては、「阿部泰蔵『修身論』における「God」の翻訳をめぐる 大阪大学大学院アルベルト・マルティン を参照した。

注4 格物、致知、誠意、正心、修身、齊家、治

注5 五箇条の御誓文